

テーマ

子どもも大人も生き生きできる地育・共育活動の創造

目標

豊かな心を育み、たくましく生きる力をもった子どもの育成をめざす学校支援活動の促進と地域全体で展開する教育環境の整った美しく、安全・安心なまちづくり。

今年度の取組紹介

第3回「防災フェスタ in 富南」は、昨年度をはるかに多い参加者1000名を越える「防災フェスタ in 富南」となり、幼小中の教師、各PTA、地域とが一体となって協働する場をもちました。今年度は出店ブースも増設するとともにあらゆる団体の模擬店も出されました。どのブースも大盛況で長蛇の列になりました。また、中学生作成のゆるキャラ「とみにゃん」により幼小中の子どもたちに協議会の存在をアピールし、マスメディアによる広報もできました。「防災フェスタ in 富南」は、地域防災意識とスキルの向上を図ることができ、継続開催が決定して



います。来年度も12月開催予定です。また、本年度初めて、小中一貫教育と連携して「とみにゃんコンサート」を実施し、より地域の連携を深化させることができました。また提言に基づいたコミュニティルームの設備も充実し、事務局・コーディネーター・PTAが協働できる拠点ができました。地域のネットワークづくりを推進するとともに、ホームページのリンクを充実させ、広報活動を活発に行いました。

今年度のまとめ

第3回「防災フェスタ in 富南」を開催し、協力団体40、参加者1000名を越える参加を得て、学校・地域が協働して防災意識を高め、訓練を充実させる取組ができた。協議会のゆるキャラ「とみにゃん」も設定され、協議会が地域に広く認知され、浸透しやすくなった。中学生と地域とPTA合同で防災リーダー育成研修を開催し、継続開催される「防災フェスタ in 富南」の充実と実践力の育成を開始しました。地域の特色ある取組としICTアシスタント事業や特別支援サポート・国際理解サポート事業が実施できサポート事業が広がりました。

来年度に向けて

各校園での地域人材を活用した取組は活発に行われていますが、ボランティア登録数はまだ少なく、今後域全体として活用の交流を図るだけでなく、近隣協議会とのボランティアを共有することで、学校現場のニーズに応じたサポート体制を作ることが課題です。更に地域全体としての絆を深めていくために、防災フェスタを継続開催することで地域に根付かせ、「安全・見守りネットワーク」だけでなく多岐にわたるネットワークを構築することです。また、新設されたコミュニティルームが地域の情報発信の場として今後もひろがり期待したいところです。

テーマ

創造、自分の夢、地域の未来！

目標

ハートフルディ・体験学習の充実を図る。地域の人との交流を通し、地域を実感し、大人から学ぶ。

今年度の取組紹介

○ キャリア教育（福祉体験・職場体験事前学習など）や栽培実習の講師、情報の授業や放課後学習教室の補助、特別支援講師、国際理解支援、図書ボランティア等、地域ボランティアの活用が広がり、生徒との交流も深まってきました。

○ 「防災フェスタ in 富南」に積極的に参画し、ゆるキャラづくりや準備、運営まで地域の方と協働することができました。幼小中学校の連携としては、職場体験、教員の小学校見学会、生徒会が主催した小学生の体験入学等を行いました。また、今年度は「とみちゃんコンサート」も実施しました。地域への感謝の気持ちをボランティア清掃や夏祭りのお手伝い、吹奏楽部・ギターマンドリン部の高齢者施設での慰問演奏や公民館の記念式典参加など通じて表すことができました。生徒と教師が地域との関わりを実感した時間をもてました。協働する取組が進みました。



今年度のまとめ

○自分たちで、集会を開き、行事を創り上げ成功させて、自分たちで自主的に活動することが自信につながり、生徒会本部やリーダーの育成につながりました。

○福祉体験・職場体験学習・ITサポート等地域ボランティアの活用が広がり、生徒と地域の交流も深まりました。地域で学んだことは、自分たちの将来の職業を考える指針となっている。事後学習の発表会は、1年生も参加し、自分たちで工夫したプレゼンを行うことで発信力とコミュニケーション力を高められました。

○地域主催の「防災フェスタ in 富南」に積極的に参画し、防災意識を高めました。

来年度に向けて

・本校生徒の課題である「コミュニケーション力」を高める取組を進めていくとともに、「豊かな心」「積極性」「規範意識」の育成を目指して、生徒自らで生徒会活動や学校行事をより練り上げます。

テーマ

いきいきワクワク富南タイム

目標

『人とふれあい地域とつながる』をコンセプトに地域環境を生かした体験重視と、読書を通じた情操力の向上を目指す。

今年度の取組紹介

本校はこれまで、地域の特性を生かした体験活動を実施することにより、地域のかたとのふれあいを通して豊かな人間性の育成を図ってきました。自分たちが生活する地域社会と積極的に関わり、体験活動を通して学ぶ楽しさを味わうことが、地域を愛する心やより良い生き方・考え方を身につけることができると考えました。

豊かな自然と地域の産業を児童が理解するためにチャレンジタイムを設定

5年生は地域ボランティアの協力のもと、米作りに取り組む。校区にはまだ田畑が多く残っているが、児童の実態としては、田植えは勿論、田に入ったことのある児童はほとんどいない。そこで、田おこしの必要性、苗づくりの難しさ、そして代かきの大切さなどをていねいに教わり、ほとんどの児童が初体験の田植にも挑戦した。6月、地域の方と一緒に苗を、ひとつひとつていねいに植えた後、草取りや水の管理、収穫祈願の案山子作りへと取り組みは進む。夏休み中の草取りや理にもボランティアや地域の方の協力を得ながら取り組み、近隣の農家のみなさんとの交流も



あり、秋には見事に実った稲を2俵収穫することができました。収穫祭には、お世話になった地域の方をお招きして「お米パーティー」を開き、収穫したお米でおにぎりを作り、ボランティアの方々や地域の方々をお招きして、心の交流もできました。

今年度のまとめ

「地域の環境を生かした体験活動」「読書環境の充実」「校内および地域の環境整備事業」を柱に、学校・保護者・地域が協働して様々な取組を推進してきました。どの取組でも、ボランティアの方々に多大のご苦勞をいただいたが、事後、どの方も「学校に来て、元気をもらった」「気持ちの良い時間だった」等のご意見をいただいています。また、児童からも「いつも交差点にいるおじさんが、けん玉の名人だったよ」「グランドゴルフをおしえてくれたおばちゃんは、ぼくのおとなりです」等の話を聞くことができました。児童に自分が住む町への関心を深め、地域に生きているという意識を持たせることができた。地域の方々が学習活動に参加していただくことで、本校教育への理解を深めていただくことができました。

来年度に向けて

本年度の活動内容を深化発展させるとともに、地域の方々との絆をさらに深め、ボランティアおよびコーディネーターの人材発掘も今年度以上に積極的に進めていきたいです。

テーマ

仲よく、楽しく、希望あふれる碓っ子

目標

児童の豊かな感性を醸成する**～学習環境の整備・充実 地域の方々と連携した本物体験**

今年度の取組紹介

「三碓の町たんけん」「いのちの学習」「三碓の祭り」「昔あそび」「人権と平和」「稲作」など各学年で、事業テーマに基づき、様々な本物に触れる活動を行うことができました。これも長年本校を支えてくださる地域の方々のお蔭です。

さらに今年度は新たに、4年生が地域を流れる「富雄川」を学習材として、児童全員が「富雄川に触れる」「富雄川を知る」ということから学習をスタートしました。児童自らの「なぜ?」「どうして?」という思いから課題設定し、様々な人と関わって調べたり、現地に行って確かめたりするなど探究はどんどん深まりました。しかし、児童の疑問は多種多様で、その解決には専門的な知識や技術が必要なこともありました。そこで今年は様々な専門分野の方々のご協力を得、児童は新たな出会いを通して、本物を体験することができました。これは「三碓学習」の大きな一歩となりました。また、豊かな感性を育む事業として、「図書ボランティア」活動と新たに「校内緑化整備」に着手しています。



今年度のまとめ

豊かな感性・情操の育成は、本校保護者および地域の方々の強い願いです。本事業を継続して行ってきた一番の財産は「人となご縁」です。様々な専門性や人脈をもった方々との出会いから、また新たな人となごつながりが生まれました。その地域を愛する方々とともに本物を体験した児童は、地域「みつがらす」を愛し、郷土ならに誇りをもつことができました。その思いを、周囲に発信し、良さを次代へとつなごうとする心情と実践的方法を身につけることもできました。

緑化活動事業の「三碓の里山」整備も進み、中庭にビオトープと水田もできました。子どもたちが校内でいつでも自然に触れ合うことのできる癒しの空間づくりが進みました。

来年度に向けて

児童の疑問や関心にどれだけ寄り添ったテーマを設定し、本物の体験ができるかが重要です。児童の願いにふさわしい出会いを提供できるのでしょうか。協力いただける地域の方々との「ご縁」を大切にしながら、新しい出会いにも期待がふくらみます。

テーマ

ぐんぐん伸びよう笑顔いっぱいタイム

目標

定期的にゲストティーチャーを招聘したり、地域ボランティアの協力を得たりして3歳児からの、活動や生活への意欲的な態度や豊かな心の育成を目指す。また、活動を通して幼児期の愛着形成の必要性を知らせ、家庭の教育力向上を図る。

今年度の取組紹介

昔からうたい継がれている伝承文化であるわらべうたに親しんだり触れたりする機会として、年間9回のわらべうた遊びを実施しました。時節にあったわらべうたを発達段階に応じて、まりやお手玉を使いながら進めてもらったことで「今日はどんな遊びをするのかな」と興味を示したり、楽しみにしたりするようになりました。音域が狭いわらべうたは、未就園児や3歳児でも無理なく自然に歌う



ことができ、教えてもらった遊びを祖父母参観や地域の方との交流会、生活発表会など園の行事や活動に積極的に取り入れました。「やわらかく小さなこえでうたうよ」「友達のしていることをみんなでみよう」と子どもの様子に合わせたゲストティーチャーの声かけや指導は、子どもの集中力を高め楽しく活動できました。

絵本の読み聞かせ活動は、継続した取組です。今年度の「絵本タイム」は、保護者と地域の方にも各クラスで絵本の読み聞かせをしてもらいました。クラスの実態に応じた絵本を選択し、読み聞かせを事前に練習してもらい取り組みました。普段、先生に読んでもらう時とまた違った雰囲気の中で、子どもたちはいろいろなお話に触れ、自分の知らない世界から興味関心を広げたり、豊かな想像力を高めたりすることができました。

今年度のまとめ

- わらべうたは、歌いやすい音域で幼児から高齢者までいろいろな人やいろいろな場で親しみ遊ぶことができました。繰り返しの歌を楽しんだり、リズムの響きを感じたりしながら触れ合って遊ぶ機会となりました。また、歌と遊びが一体となっており、手足等いろいろな体の部分を動かすことで身体機能の発達も高めることができました。歌を歌いながら隣にいる人と自然に手をつなぎ遊ぶことで、人に対する信頼感や思いやりの心を育むこともできました。
- 絵本の読み聞かせは、今年度、新たに保護者や地域の方の協力を得ることができました。活動を通してボランティアの方には楽しく読み聞かせをしていただき園の教育を知ってもらう機会にも繋がりました。

来年度に向けて

- 生きる力を育む基礎となる体力の向上と人とかかわりの中で培われる豊かな心の育成については、継続して取り組み子どもの力に結び付く体験として積み重ねていきたいと思っております。

テーマ

笑顔・喜び・愛あふれる三碓っ子の育成

目標

「笑顔・喜び・愛あふれる三碓っ子の育成」を目指し、園児たちが様々な「ひと・もの・こと」との触れ合いやかかわりを深めることによって、豊かな心ややる気を育み、心身ともに安全な生活をする力を身につけさせる。

今年度の取組紹介

世界遺産に触れよう事業では、地域の方や保護者と共に国立博物館に行き、講堂で帝塚山大学教授の西山厚先生に“大仏殿の秘密”や“大仏様”や“興福寺の阿修羅像”など、『奈良の魅力』をたっぷり子どもにもわかりやすく写真やクイズなども取り入れながら教えていただきました。昨年や今年の春の遠足で大仏様を見ている経験から、写真が映し出されると「見たことある！大きかった。」と自分たちの経験も思い出しながら話を聞いていた。「大仏様の体の中ってどうなっていると思う？」「実はね・・・」ととても魅力的に語られ「えー！すごい」と子どもたちも想像を膨らませ、興味関心をもって聞くことができました。「体の中はジャングルジムみたいになってるんだね。」「鼻の穴は6個もあるんやな。」と終わった後に友達と話していました。国立博物館の展示物を見学し興福寺の側まで見に行くと西山先生の話を出し「この中に阿修羅とお友だちがいるだよ。」と話す姿もありました。



また、地域の三碓地区の由来となった『根聖院』というお寺に園外保育に行きました。境内に大きな石があり、住職から「これはからうすですね、これを大仏様を作られた聖武天皇がここに来られた時に見て、三つ穴が開いていることから“三つのからうす”から“みつがらす”と地名を名付けられたんだよ。」と話を聞かせてもらった。「すごいな。おもしろいな。」「お母さんに言おう。」と自分の住んでいる地域の歴史を身近に感じられたようであった。話を聞いたり身近に触れたり見たり経験する中で地域や町の魅力を知り、興味・関心や親しみをもつことができました。



今年度のまとめ

未就園児や保育園・小・中学校や地域の方・講師の方など、いろいろな人との触れ合いでは、一緒に活動することの楽しさや喜びを感じ、親しみや思いやりの心が育ってきました。講師を招いてのお茶会やサッカー教室・お話の会・リトミック・ヒップホップ・観劇会などでは、心を揺さぶり、充実感や次の意欲へとつながりました。世界遺産に触れよう事業では「奈良のよさ」「奈良の素晴らしさ」を教えていただき、地域や町に興味関心を持ち、触れることができました。

来年度に向けて

地域の方の教育力を十分に活用しながら、豊かな心ややる気を持ち、いきいきと活動する園児を目指して、今年度の事業をさらに充実し、子ども達への育ちとへとつながるように改善・推進していきます。